

神奈川畜産情報

発行所
神奈川県畜産会
横浜市磯子区西町14-3
畜産センター内
電話 045(761)4191
FAX 045(759)1162
発行人
平本光男

(公社)中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

「がんばる!畜産!9」

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!
映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!

配信内容:ヨーロッパ畜産の力とチーズ街道 オーストラリア・ブレンダースタッフアルト 日本畜産学会100周年 第132回大会総集編/国際畜産展総集編 2024 総集編 ほか

スマートフォンからはこちら
パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産

(公社)中央畜産会 経営支援部(情報) TEL03-6206-0846

隔月1回(1日)発行

〔神奈川畜産情報(平成18年1月号以降)はホームページでもご覧になれます〕

神奈川県畜産会のホームページ

「かながわ畜産ひろば」[\[http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm\]](http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm)

「牛乳の日イベントin花菜ガーデン」を開催しました

みなさん、お久しぶりです!ぼく、牛乳だいすき「カナミルくん」です!令和8年6月14日(日)、神奈川県立花と緑のふれあいセンター花菜ガーデンで、「牛乳の日イベントin花菜ガーデン」を開催しました!みんなに会えて、ほんとうにうれしかったですよ!

今年4月からぼくが仲間入りした全農神奈川県本部の活動として初めてのイベントで、スタッフみんなで一生懸命準備しました!毎日牛を大事に育てて牛乳を生産している酪農家さんや、酪農を勉強中の県内高校生たちも協力してくれました。

「牛乳いろいろ飲み比べ」のコーナーでは、県産牛乳100%認証商品を含む3種類の牛乳を飲み比べ!成分無調整の「牛乳」や、すっきり低脂肪の「成分調整牛乳」を飲み比べて、それぞれの味わいを楽しんでもらったよ。ぼくも今度お買い物するときは、牛乳売り場にどんな種類があるかみてみよう。

他にも、楽しいイベントが盛りだくさん!「模擬牛での乳しぼり体験」では、ホンモノそっくりの模擬牛を使つての乳しぼりを酪農家さんに教えてもらったよ!初めて酪農家さんと直接お話しできてうれしかった!

新企画の「モーモー〇×クイズ」

は、酪農家のヒロシさんと、芸人のアホマイルド坂本さんが司会としてきてくれたよ!ぼくもドキドキしながらステージに上がったよ!たくさんのお友だちが参加してきて、会場はとっても盛り上がりしました!

さらに「トラクターの展示&デモ」では、牧草をとっても大きな白いラップで包む様子を酪農家さんが実演!大迫力でかっこいい!ぼくもいつかトラクターに乗って牧草を刈ってみたいなあ。

「農業高校コーナー」では、県立中央農業高校と県立相原高校のお兄さんお姉さんが、酪農や、農業高校のことをわかりやすく教えてくれたよ。ゲームをしながら牛乳がぼくたちのものに届くまでの過程を学んだり、オリジナルの牛さん福笑いやカードを貰えて大満足!農業高校生ってすごいなあと思ったよ。

他にも、「チャリティたまごくじ」や「フェイスイスイベント」コーナーも大人気!楽しいイベントがいっぱいで、気づけばあつというまに一日がすぎちゃった。神奈川の酪農や牛乳について、これからたくさんのお友達と一緒に学んでいきたいなあ。

そして、また会える機会を楽しみにしてるね!暑い夏は、牛乳パワースタイルで乗り切って元気になろうね!



酪農家(左)による模擬搾乳解説



モーモー〇×クイズ

【主催】かながわ酪農活性化対策委員会、全農神奈川県本部
【後援・協力】(一社)神奈川県畜産振興会、(一社)神奈川県畜産会養鶏部会、神奈川県立中央農業高等学校、神奈川県立相原高等学校、角笛会
【カナミルくん】かながわ県産牛乳100%認証制度キャラクター(カナミルくん代筆..)

神奈川県畜産課 古瀬



神奈川県

令和8年度 ～耕畜連携堆肥利用推進事業のご案内～

1 支援内容

県が畜産農家や農業協同組合等に対し、堆肥成分分析費・堆肥発芽試験（腐熟度検定）費・堆肥運搬費・堆肥散布機械等整備費の一部を補助（補助率1/3以内）します。

2 支援対象事業者

- ・県内に農場が所在する畜産農家又は耕種農家（令和7年度の畜産物又は農産物販売金額が50万円以上の方）で、令和9年度以降もその農場で畜産または農業経営を継続し、畜産物又は農産物を出荷する見込みがある方。
- ・県内に事業所が存在する農業協同組合や、畜産農家又は耕種農家等から構成される任意団体等で、令和9年度以降も当該事業所等で畜産又は農業に関する活動を継続する見込みがある方。

3 支援上限単価

・堆肥成分分析費※1	10,000円/回
・堆肥発芽試験費※2	5,000円/回
・堆肥運搬費※3	6,000円/回
・堆肥散布機械等整備費※4	300,000円/台

※1：1事業者2回まで対象

※2：1事業者1回まで対象

※3：1事業者6回まで対象

※4：複数台希望の場合、2台目は要望状況を考慮して可否を決定

対象は畜産農家個人および団体

※※：予算上限に達した場合、申請を締め切ります

※※※：堆肥散布機械等（マニュアルスプレッダー、ブロードキャスター、その他堆肥の散布・流通促進に資する機械等）の納品時期が上半期は10月以降、下半期は4月以降にならないようご注意ください

4 事業スケジュール（予定）

交付申請期間

上半期：令和8年8月3日～9月3日

下半期：令和9年1月12日～2月12日

交付決定

上半期：令和8年8月下旬～9月下旬

下半期：令和9年2月上旬～3月上旬

実績報告

上半期：令和8年10月30日まで

下半期：令和9年4月30日まで

補助金対象期間 上半期：令和8年4月1日～9月30日（交付申請期間8月3日～9月3日）
下半期：令和8年10月1日～翌年3月31日（交付申請期間1月12日～2月12日）

※交付申請日・交付決定日前に実施したのも含む

5 交付申請に必要な書類（実績報告に必要な書類は別途お知らせします。）

- ① 耕畜連携堆肥利用推進事業補助金交付申請書（第1号様式）
- ② 補助金の振込先の通帳（表紙を1ページめくった中表紙の見開き）等の写し 他

6 申請書類提出期間・書類提出先

提出期間：（上半期）令和8年8月3日（月）～9月3日（木）

（下半期）令和9年1月12日（火）～2月12日（金）

提出先：（一社）神奈川県畜産会（〒235-0007 横浜市磯子区西町14-3）

電話：045-761-4191 FAX:045-759-1162 メールアドレス：mail@kanali.or.jp



新たな改良型種豚を開発しています

【改良型種豚の開発】

畜産技術センターではランドレース種系統豚「ユメカナエル」を活用した高品質な肉豚生産体制を構築するため、H29年度から産子数等の繁殖性に優れた外部導入豚とユメカナエルを交配し、ユメカナエルの特徴を維持しながら繁殖性を向上させた改良型種豚を開発し、県内養豚場へ配布しています。

【改良型種豚の開発状況】

H30年度から改良に着手し、外部導入豚としてクリストファー、MARKB、アレキサンダーを利用して開発した改良型種豚は、改良目標とした総産子数13頭を達成し、現在も配布を継続しています。

R6年度からは、新たな外部導入豚を再び交配し、次世代の改良型種豚の開発を進めています。

【新たな外部導入豚の選択】

新たな外部導入豚は、写真でみる体型やカタログデータの能力を参考に、県内生産者と意見交換しながら、下に示す3系統を選択しました（図1）。

系統1：イバボクルーク



系統2：フジカール



系統3：フジルーク



改良材料とした外部導入豚（精液）をそれぞれユメカナエルに交配



交配により作出した改良種豚生産用の雄（100kg到達時）

図1 改良材料の外部導入豚（上）と作出した改良型種豚生産用の雄（下）

表 改良型種豚に係る生産・配布計画

R8年度	新たな系統	これまでの系統
3～5月	作出した雄とユメカナエルを交配	アレキサンダーのみ改良型種豚の生産・配布を継続中
7～9月	改良型種豚の生産	
12月以降	改良型種豚の配布開始	

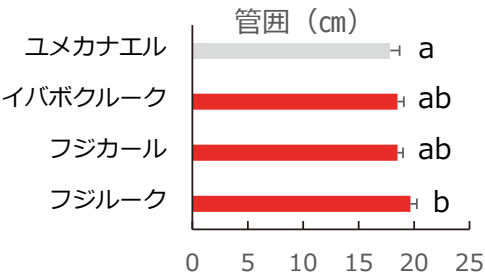


図2 各系統の100kg到達時の管囲
異符号間に有意差あり (p<0.05)

新たな外部導入豚を利用した改良型種豚の開発状況は、R7年度に作出した改良型種豚生産用の雄の100kg到達時の体型及び産肉性の調査が終了しています。ユメカナエルの特徴でもある強健性の指標とした管囲は、ユメカナエルと比較して、フジルークは1.7cm太くなりました（図2）。R8年度以降は、これらの雄とユメカナエルを交配して作出する改良型種豚の能力について調査します。R8年12月以降に（一社）神奈川県養豚協会を通じて配布を始めます。多様な育種資源としてぜひ御活用ください（表）。

（担当 企画研究課 養豚グループ 林迪、中原祐輔）

令和7年度畜産経営の 分析結果と考察

【養豚部門】

● 診断農家

令和7年度における養豚部門の経営診断指導対象は、畜産経営技術高度化促進事業対象3戸と、その他事業対象の中から総合的な分析に必要な数値が把握できた1戸を加えた、4事例について行った。成績は(表1・表2・表3)のとおりである。

● 経営概況

4例とも繁殖・肥育一貫経営であり、すべて法人化された養豚專業経営である。

労働人員一人当たり母豚飼養頭数は全四例の平均で50.1頭であった。

● 繁殖成績

◆ 1腹当りの生存子豚、離乳子豚頭数と育成率

1分娩当たりの生存子豚頭数は平均12.2頭(11.8～12.7頭)となり4農場全ての農場で11頭以上と良好な結果となった。多産系の血統を活用している農場も始めており今後はより一層の産子数の増加が期待される。

1腹当り離乳子豚頭数の平均は10.8頭(10.6～11.0頭)となり昨年平均と変わらない結果となった。今期は生存産子数が昨年度よりわずかに増えた(0.1頭)ものの、離乳子豚数は増え

なかった事により平均育成率は88.3%とわずかに下がった。

離乳子豚数の改善策としては分娩施設面の見直し、分娩・哺乳時のきめ細やかな管理や分割授乳の導入、特に近年では夏前からの気温上昇による暑熱による影響による親豚による哺乳子豚の圧死率上昇などがみられるため、分娩舎の哺乳中母豚への暑熱対策により哺乳子豚の損耗対策などの飼養管理改善による育成率の向上を目指して欲しい。

分娩回転数の平均は2.29回転で、最低値2.16～最高値2.43となり、分娩回転の低い農場では種付け担当の変更による受胎率の低下等の技術的な改善を要する事例も見受けられた。分娩回転数に関しては23回転以上で安定出来るようにしたい。

● 肥育成績

◆ 母豚一頭当り出荷頭数

1母豚当り出荷頭数は、20.7～22.6頭となり、平均は22.0頭と前年平均より0.9頭の増となった。繁殖部門の生存産子数の増加、育成率の改善に伴う出荷頭数の増加がみられた事例もあるが、離乳後事故率の上昇により思うように出荷頭数が伸びなかった事例もあったが4事例中3事例が1母豚当たり22頭を超える出荷となった。

◆ 事故率

離乳から出荷までの事故率の平均

は9.7%となり前年度平均と変わらない結果となった。本年度は農場Aと農場Dの農場で事故率が高く、農場Dに関しては冬場の事故率の上昇が見られた。農場Aは豚舎施設の故障による大規模な子豚の損耗があったため、疾病での事故率としては例年より減少している。農場間較差は20%～16.5%となった。

● 収益

◆ 生産費

出荷肉豚1頭当りの生産費用及びその構成費目の内訳については表2に示すとおりである。

出荷肉豚1頭当りの4事例平均生産原価費用は三九、〇一九円となり前年度平均より六四九円上昇している。

◆ 母豚一頭当り生産物売上高

養豚一貫経営における収益性を検討するにあたり、母豚1頭当りの生産物売上高をみると表3にあるように、平均一、〇五二、五五七円(九三五、一六四円～一、三六、四五八円)で前年平均より一三、九一七円の増収であった。

出荷豚の枝肉1kg当り販売額は平均六一五円となり、前年度平均と比べ三七円の大幅な増額となった。

戸々で見ると農場Aは六一〇円(前年五七六円)、農場Bは六二五円(前年五七八円)、農場Cは六〇四円(前年五六五円)、農場D

は六一五円(前年五九一元)と4農場全てが前年を上回る結果となった。各経営の決算期の関係による市場価格差もあり一概に比較出来ない部分もあるものの、銘柄豚生産割合や上物率等の違いも、価格差を大きくする要因の一部である。

肉豚出荷価格の年間変動は大きく、出荷のタイミングによつて同質の肉豚でも大きな収益差が生じる。令和6年度の東京市場上物価格は平均六六七円で前年度市場平均より六三円上昇し、5月以降8月まで月平均で七〇〇円以上の高値相場が続き、年間を通して見ても月平均で六〇〇円上回る月も多く、高い卸売価格で推移した。

◆ 飼料価格

生産費で最大構成比率を占める飼料費の1kg当り加重平均価格は表3に示すよう59.5円(43円～66円)となった。それぞれの飼料単価については、年間全飼料購入金額を全購入量で除したもので、自家配合(原材料価格のみで労賃や施設等償却費をみていない)をしているところ等があるため単純に比較はできない要素もあるが、購入単価以外にも飼料給与体系の検討が望まれる。また、食品未利用資源の活用により、飼料単価を抑えている事例もある。

◆ 種豚1頭当り利益

1母豚当たりの飼料費(加重平均)

表 1：令和 6 年度 養豚経営技術分析数値（経営規模・繁殖・生産技術）

区分	項 目	A	B	C	D	平均値	最大値	最小値
	経 営 形 態	一貫経営	一貫経営	一貫経営	一貫経営			
経営規模	労働力1人当り飼養母猪数	49.3	35.7	67.6	47.9	50.1	67.6	35.7
	1 腹 当 総 産 子 数	14.0	13.5	13.6	13.1	13.6	14.0	13.1
	1 母 猪 当 年 産 子 豚 頭 数 (頭)	12.7	12.2	12.3	11.8	12.2	12.7	11.8
	1 腹 当 離 乳 子 豚 頭 数 (頭)	11.0	10.6	10.8	10.8	10.8	11.0	10.6
	母猪1頭当生存子豚数 (頭)	30.8	27.3	26.5	27.7	28.1	30.8	26.5
	母猪1頭当離乳子豚数 (頭)	25.6	23.5	23.3	25.3	24.4	25.6	23.3
	1腹当哺乳子豚事故 (頭)	1.7	1.8	0.9	1.1	1.4	1.8	0.9
	育 成 率 (%)	86.6	86.9	88.1	91.7	88.3	91.7	86.6
	分 娩 回 転 (回)	2.43	2.23	2.16	2.36	2.29	2.43	2.16
	1 母 猪 当 年 間 出 荷 頭 数 (頭)	22.4	22.6	22.1	20.7	22.0	22.6	20.7
繁殖技術	肉豚出荷1頭生体量 (kg)	119.6	120.0	115.1	106.3	115.2	120.0	106.3
	1 頭 当 り 枝 肉 量 (kg)	79.1	80.6	76.0	71.4	76.7	80.6	71.4
	母猪1頭当出荷枝肉量(kg)	1,730.1	1,791.8	1,681.1	1,474.0	1,669.3	1,791.8	1,474.0
	農場(経営)飼料要求率	3.41	3.08	2.96	3.85	3.32	3.85	2.96
	枝肉経営飼料要求率	5.31	4.68	4.58	5.75	5.08	5.75	4.58
	事故率(離乳一出荷) (%)	16.5	6.4	2.0	14.0	9.7	16.5	2.0

は四六五、五一三円（前年比101％）となり、1母猪当たりの生産原価では八四五、九一二円（前年比105％）となった。収益に関しては、種雌豚1頭当りの当期利益の平均は一〇四、四三五円となり前年平均と比べ三三、五二二円の増額となった。これは、飼料費、人権費等の生産コ

ストの上昇があったものの豚肉市場価格が非常に好調であったことが考えられる。

◆まとめ

近年は種豚の改良に伴い大型化、産子数の増加、出荷頭数の増加、枝肉重量の増加がみられ1母猪当たりの売上高の増加に繋がった。その一

表 2：令和 6 年度 出荷肉豚 1 頭当り損益分析表

項 目	A	B	C	D	平均	最大値	最小値
期 首 棚 卸 高	3,904	4,426	5,251	12,180	6,440	12,180	3,904
(購 入 飼 料 費)	13,077	23,628	22,349	27,009	21,516	27,009	13,077
(衛 生 費)	3,348	2,674	3,432	2,008	2,866	3,432	2,008
(減 価 償 却 費)	2,732	857	2,955	581	1,781	2,955	581
(人 件 費)	9,776	6,666	6,688	9,088	8,055	9,776	6,666
生 産 費 用	36,050	38,193	40,740	43,677	39,665	43,677	36,050
期 末 棚 卸 高	△ 4,078	△ 4,044	△ 5,862	△ 13,188	△ 6,793	△ 4,044	△ 13,188
当 期 生 産 原 価	35,310	37,967	40,129	42,670	39,019	42,670	35,310
費 用 合 計	48,330	45,751	48,727	48,803	47,902	48,803	45,751
生 産 物 売 上 高	51,303	51,206	45,874	45,343	48,432	51,303	45,343
(肉 豚 売 上 高)	48,273	50,341	45,874	44,274	47,191	50,341	44,274
事 業 外 収 益	6,534	3,084	1,860	3,510	3,747	6,534	1,860
総 収 益	51,303	54,291	47,734	48,853	50,545	54,291	47,734
当 期 利 益 金	2,973	8,540	△ 993	51	2,643	8,540	△ 993

表 3：令和 6 年度 農場別経済性分析表

項 目	A	B	C	D	平均	最大値	最小値
売上高飼料費率 (%)	25.5	46.1	48.7	59.6	45.0	59.6	25.5
売上高人件費率 (%)	19.1	13.0	14.6	20.0	16.7	20.0	13.0
売上高純利益率 (%)	25.9	16.7	△ 2.2	0.1	10.1	25.9	△ 2.2
飼料1kg平均価格 (円)	43	65	65	66	59.5	66	43
生体kg当り販売額 (円)	400	419	399	416	408	419	399
生体kg当生産原価 (円)	292	318	349	410	342	410	292
枝肉kg当り販売額 (円)	610	625	604	621	615	625	604
枝肉kg当生産原価 (円)	446	471	528	598	511	598	446
出荷豚1頭販売額 (円)	48,273	50,341	45,874	44,274	47,191	50,341	44,274
出荷豚1頭生産原価 (円)	35,310	37,967	40,129	42,670	39,019	42,670	35,310
1 母 猪 当 り 売 上 高 (円)	1,124,855	1,136,458	1,013,751	935,165	1,052,557	1,136,458	935,165
1 母 猪 当 り 純 利 益 (円)	65,190	189,531	△ 21,938	1,045	58,457	189,531	△ 21,938

方で1母猪当たりの生産原価も増加し、生産原価の半分以上を占める飼料費の他、人件費、衛生費の主要3費目を合わせると生産原価の80％以上を占める。

令和6年度は飼料費及び人件費の上昇がみられた中での決算となったが豚肉の市場取引相場が非常に高く

推移したことで多くの農場は利益を確保出来ている。しかし、原材料資材やエネルギーの価格、人件費の上昇は続いており、修繕費や光熱費の上昇も経営コストを押し上げているため、生産性向上と生産コスト削減の検討は引き続き行う必要がある。

【肉用牛部門】**1. 肉用牛の情勢**

昨年引き続き、ウクライナ危機による食料供給網の混乱、円安等による飼料や燃油、化学肥料などの生産資材価格の高騰が経営に大きく影響を及ぼした。

和牛枝肉の価格（東京食肉市場加重平均価格）については、米価に代表される物価の上昇を背景とした消費者の生活防衛意識が根強く、小売段階での引き合いが弱含む中、前年を下回る水準で推移した。外食・業務向け需要には回復の動きが見られたものの、全体として価格の本格的な回復には至らず、低調な推移が続いた。

肉用子牛価格は、令和6年に入って下落しはじめ、特に黒毛和種の価格は11年ぶりに五〇万円を切り、1頭当たり四九万八、九〇〇円となった。この価格は肉用牛子牛生産者補給金制度の保証基準価格（五万六千四、〇〇〇円を下回り、その差額が生産者補給金として交付された。（参考：令和7年度には保証基準価格は五七万七、四〇〇円に引き上げられた。）その後、肉用子牛価格は回復し、補給金制度の7年度第2四半期の平均売買価格は1頭当たり六五万円となり保証基準価格を大幅に上回る水準となった。低迷して

いる枝肉相場とは逆の動きで、子牛の供給不足への懸念は強く、直近の全国平均では和牛去勢の子牛価格は八八九千円となっている。

配合飼料価格は、令和2年10月からシカゴ相場の上昇に伴って上昇しはじめ令和4年7月には一〇万円／tを超え、その後も高止まりが続いている。令和7年度は、前半に値下げが進み、後半に上昇圧力が強まり、令和8年度に向けて大幅な値上げが決定している。

2. 本県肉用牛の動向

飼養戸数は、全国的に減少で推移しており、本県の場合も平成4年の三七〇戸をピークに小規模経営を中心に減少してきた。令和7年2月1日現在の肉用牛飼養状況は、農林統計（農水省）によると、飼養戸数は四六戸であった。飼養頭数は平成6年の七、五九〇頭をピークに減少傾向で推移し、令和7年は四、七一〇頭であった。1戸当たりの飼養頭数は、平成5年まで二〇頭前後で推移していたが、以降徐々に増加し、令和7年は一〇・四頭であった。

3. 診断農家成績の分析概要

令和7年度畜産経営技術高度化促進事業実施にあたり肉用牛部門は、経営診断に基づく改善指導三戸、生

産技術指導三戸、フォローアップ指導二戸の計八戸に対して支援指導を実施した。

このうち総合的に経営数値が把握できた2事例に加えて、後継者等育成支援等において技術成績が把握できた事例を加えた合計9事例について分析した。

（1）診断農家の飼養規模**ア. 経営形態**

2号と3号、4号について肥育部門に繁殖和牛の一貫生産を取り入れている。素牛価格の高騰が続く中、繁殖部門に取り組み、受精卵移植、ゲノミック評価を活用し自家産牛の割合を順調に増加させている。

肥育部門においては、黒毛和種の肥育専門経営が2号、7号、8号の3事例であった。

黒毛和種と交雑種を飼養している経営は残りの1号、3号、4号、5号、6号、9号の6事例であった。このうち6号は、県内の黒毛和種受精卵子牛を導入することでもと畜費の低減を図っている。

イ. 飼養規模

飼養規模については、肥育牛五〇頭以上一〇〇頭未満が3事例、五〇頭未満が2事例、一〇〇頭以上が4事例であった。

（2）肥育牛の成績（表1）

導入・出荷成績の判明している9

事例について収益性に関わる項目（上物率、枝肉重量、枝肉単価、出荷日齢、素牛価格、飼料費、販売価格）を比較する。

枝肉重量は、525kgから571kgで平均555.4kgであった。前年度548.1kgで増加している。

枝肉単価は、二、一九七円/kgから二、五〇五円/kg、平均二、三六九円/kgで前年度平均二、四三四円/kgと比較して低下がみられた。

出荷日齢は828日から942日で、平均は903日で前年度の890日と比較してやや増加傾向であった。

素牛価格は四七七千円（自家産評価額）から最高は子牛市場導入の八〇〇千円で、大きく差があり、平均六〇六千円、前年度六三二千円を下回っている。これは市場の肥育素牛価格が下がったというよりも、具体的に自家産牛及び和牛受精卵子牛導入の割合が増加したことが要因と考えられる。

飼料費は三五九千円から五九八千円で、平均は五〇八千円と前年度四七三千円を上回った。

販売価格は一、二二二千円から一、四二五千円で、格差がみられ平均は一、三二二千円で前年度一、三四四円と比較してほぼ横ばいであった。

【販売価格から素牛価格を差引いた

1頭当り増加額】

五一七千円から八四五千円で大きな格差が見られた。平均七一五千円で前年の七一一千円ではほぼ横ばいであった。

肥育牛1頭当り増加額から飼料費を差引いた肥育差益については、五一千円から三七七千円と幅があり、平均二〇六千円で前年平均二三八千円を大きく下回った。

素牛導入県である神奈川県において、長引く素牛価格高騰は経営を逼迫させている。令和7年度結果（令和6年度データ）は、飼料費が大きく上昇し、素牛価格、販売価格は横ばいであったため、増加額は横ばい、肥育差益が前年度を下回った。もと畜費低減を図っているが飼料価格の上昇や販売価格の頭打ちといった相場の影響が大きい。

【増加額と肥育差益：図1～図4】

各項目について経営毎にプロットし、特徴のみられた経営について解説する。

①増加額が八四万円／頭と高い2号と4号についてみると、素牛価格はほぼ同額の五五万円／頭（図1）だが、飼料費は2号は平均を下回り4号は高め（図2）となっている。販売価格についても一四〇万円／頭と同額（図3）で

あることから飼料費の差が肥育差益の格差であることがわかる。

②増加額が少ない7号と9号についてみると、素牛価格が高く（図1）平均の六〇万円／頭を上回っている。飼料費は7号が平均の五〇万円／頭を上回っているが、

9号は三五万円／頭と9事例の中でも最も安い（図2）。販売価格については7号が9号より高く販売（図3）している。飼料コストの差と販売価格の差によって肥育差益に差が現れていることがわかる。

③販売価格が一四二万円／頭と高い1号だが（図3）素牛価格、飼料費とも平均より高い（図1、図2）ため増加額が六三万円／頭、肥育差益も一五万円／頭と平均以下に留まっている。

4. 支援指導の方向と対策

生産費の3割以上を占める畜畜費の低減対策に取り組む事例がコンサル事例の中でもみられ、肥育経営において繁殖部門を導入している。

繁殖一貫に取り組む経営では自家産牛は出荷まで八〇～九〇万円程度で仕上がっている。一方、黒毛肥育専門の経営では現在でも九〇万円前後の素牛を導入しているため出荷時の生産原価は一二〇万～一三〇万円

となる。最近の国際情勢など先の見えない状況で今後も消費低迷は続くことが予測され枝肉相場は期待できないことから、県外からの導入だけでは経営維持が困難な状況が続いている。

令和7年末から素牛価格が上がりはじめている。高付加価値販売（ブランド化）を維持するために優良肥育素牛を導入してきた本県においては依然として子牛市場で高い素牛を導入しており、畜畜費低減のためには一貫経営か受精卵移植を活用したスモールの導入（県内での地域一貫）にも取り組むことが今後の生き残り対策といえる。

繁殖部門を持たない経営において、全頭和牛導入は今後の経営の持続が厳しい。和牛の消費が落ち込む一方で交雑種の枝肉相場は好調であることから和牛肥育と交雑種肥育の混合も検討する必要がある。

また、繁殖部門のある経営では、経産牛肥育もここで見直されてきていることから検討の余地は大いにある。

引き続き、素牛供給基盤の強化に受精卵移植を活用した肥育経営と酪農経営の連携は不可欠で、同時にキャトルセンター（CS）による飼養管理の受託など地域支援体制を強化することも喫緊の課題である。

表-1 肉用牛肥育経営 黒毛和種去勢 収益性（増加額と肥育差益）

NO	項目		1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号	8号	9号	平均	全国H5
1	肥育牛販売価格	円	1,425,285	1,402,844	1,249,204	1,402,878	1,212,036	1,252,285	1,373,319	1,307,147	1,264,644	1,321,617	1,391,742
2	枝肉単価	円	2,505	2,505	2,356	2,447	2,212	2,374	2,463	2,431	2,197	2,369	2,665
3	枝肉重量	kg	568.0	559.0	527.3	570.9	545.5	525.3	558.0	533.4	571.7	555.4	522.2
4	肥育回転率【365÷肥育日数】	回	0.60	0.53	0.44	0.49	0.52	0.45	0.56	0.61	0.56	0.53	0.59
5	肥育日数	日	606.0	689.0	828.4	748.4	705.1	803.3	652.0	601.1	654.3	694.4	619
6	販売時日齢	日	912.0	942.4	828.7	894.4	896.8	925.0	925.0	857.4	936.3	903.2	923
7	販売時月齢	月	30.0	31.0	27.3	29.4	29.5	30.4	30.4	28.2	30.8	29.7	30.4
8	もと畜費	円	789,721	557,025	477,000	559,313	521,721	500,000	800,000	613,548	747,526	606,223	820,677
9	増加額（1頭当たり） 【販売価格-もと畜費】	円	635,564	845,819	772,204	843,565	690,315	752,285	573,319	693,599	517,118	715,394	571,065
10	増加額（1頭1日当たり） 【（販売価格-もと畜費）÷肥育日数】	円	1,049	1,228	932	1,127	979	936	879	1,154	790	1,030	923
11	飼料費	円	484,800	468,520	524,626	598,720	470,020	602,475	521,600	561,007	359,865	508,525	445,680
12	肥育差益（1頭当たり） 【増加額-飼料費】	円	150,764	377,299	247,578	244,845	220,295	149,810	51,719	132,592	157,253	206,869	125,385
13	肥育差益（1頭1日当たり） 【（増加額-飼料費）÷肥育日数】	円	249	548	299	327	312	186	79	221	240	298	203

図1 素牛価格と増加額

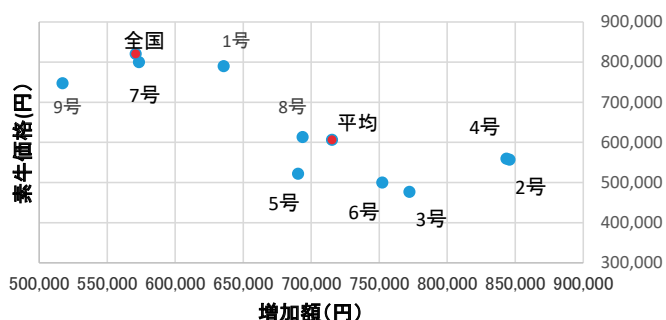


図3 販売価格と増加額

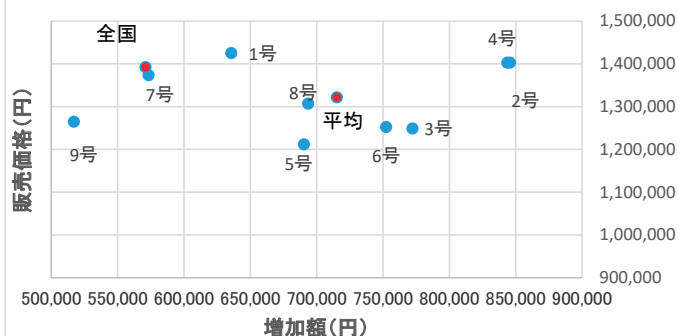


図2 飼料費と増加額

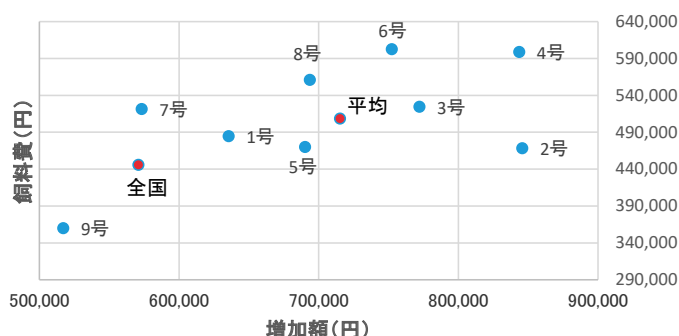
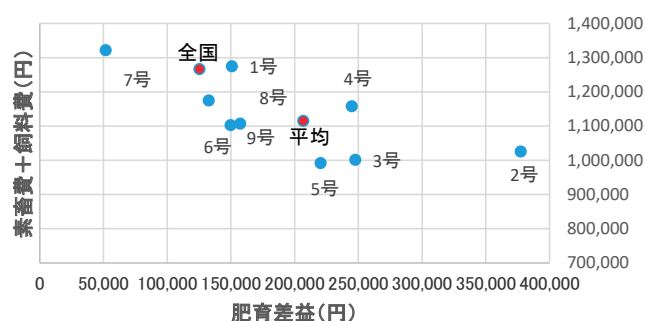


図4 肥育差益



【酪農部門】

令和7年度畜産経営技術高度化促進事業において、酪農部門では経営診断に基づく改善指導4戸、生産技術指導3戸、フォローアップ指導4戸の計11戸について経営指導を実施した。

今回は経営数値が明らかで比較可能な4戸の農家について、令和6年度実績を述べる。診断農家の経営成績は表1・表2のとおりである。

●診断農家の概況

今回調査した4戸の平均飼養頭数は30頭で、前年度平均の345頭から45頭減少している。

2号農家以外の経営では自給飼料生産を行っており、飼料耕地面積は平均二九一・三aで作付延べ面積は平均六六二・五a、圃場利用率は平均26回だった。飼料価格の高騰から、自給飼料の増産が推奨される中、

本県では都市化や狭い農地、高齢化による労働力不足等により作付面積は減少傾向であり、2号農家のように自給飼料を生産せず購入飼料のみで経営している農場も少なくない。

そんな中、自給飼料生産に取組んでいる事例農家には、稲わらの収穫や水田の裏作でイタリアンライグラスなどを生産し、収量を増やす工夫をしている経営もあった。

経産牛1頭当りの平均産乳量は、

八、〇三四・九kgで前年平均の七、三七七・三kgから約六五七kg増加した。経営個々では四、五二九（一〇、四一〇kgの範囲となり、最小と最大の間で五、八八一kgもの差が見られた。乳質は乳脂肪率が4.09%、無脂乳固形分率は8.84%で乳脂肪率は3号農家以外の農家で4%を超えていた。

繁殖については、平均種付け回数が1.9回、平均分娩間隔が152ヶ月と芳しくない結果であった。適切な分娩間隔は生涯の平均乳量を高く維持できる。飼養頭数の拡大が難しい本県の酪農では、搾乳頭数を最大化し平均乳量を上げていくことが重要である。そのため長期不受胎牛の治療や更新、発情の早期発見等、繁殖管理にはより一層の努力が求められる。

経産牛1頭当たりの所得は二六、〇二六円で、昨年平均の一四〇、六二七円から一二四、六〇一円の減となった。

乳価に関しては令和4年11月以降に段階的な引上げがあったため、牛乳販売収入は増加している（前年度一、〇四五千円から一、一八一千円）。しかし、令和6年度は一昨年からは続いているウクライナ情勢を始め、円安等による配合飼料価格や輸入乾牧草価格の高騰によって生産費用が増加しており、乳飼比については3戸

表 1 酪農診断農家の経営概況

項 目		最 小	最 大	平 均	前年平均
経産牛平均飼養頭数	頭	23.0	37.5	30.0	34.5
育成牛平均飼養頭数	頭	12.0	24.5	18.4	17.5
飼養牛中経産牛比率	%	52.7	70.8	62.1	65.3
労働力員数	人	1.5	2.5	1.8	2.2
雇用労働力依存率	%	1.2	51.1	17.5	26.2
経産牛1頭当り労働時間	h	104.7	157.9	134.6	133.1
労働1人当り経産牛飼養頭数	頭	13.9	21.0	16.7	16.8
飼料耕地面積	a	0.0	500.0	291.3	366.3
飼料作物作付延面積	a	0.0	1,500.0	662.5	682.5
圃場利用率	回	1.0	3.9	2.6	1.8
経産牛1頭当り飼料作物作付延面積	a	0.0	40.0	22.3	21.1
年間総生産乳量	t	108.7	390.4	251.7	253.3
経産牛年間1頭当り産乳量	Kg	4,529	10,410	8,034.9	7,377.3
経産牛1日1頭当り産乳量	Kg	12.4	28.5	22.0	20.2
平均乳脂率	%	3.9	4.3	4.09	4.12
平均無脂乳固形分率	%	8.68	9.03	8.84	8.87
平均乳価	円	144.5	149.1	146.5	141.2
期末平均産次	産	2.1	2.7	2.4	2.3
平均種付回数	回	1.5	2.0	1.9	2.1
平均分娩間隔	月	14.4	15.8	15.2	16.6
子牛・育成牛平均販売価格	円	64,702.0	340,838.0	204,416.5	162,997.8
成牛1日1頭当り購入飼料費(育成牛含む)	円	1,012.8	2,645.7	2,097.3	1,813.8
牛乳100Kg当り購入飼料費	円	8,162.6	10,784.5	9,365.2	9,096.7
乳飼比(育成含む)	%	56.5	73.4	63.9	64.5
労働1人当り産乳量	t	75.0	218.6	136.3	127.1
家族労働力1人当り所得	千円	△ 4,840	2,477.2	△ 336.1	3,787.6
経産牛1頭当り生産原価	円	665,865.5	1,428,283.3	1,114,829.4	1093931.6
〃 (家族労働費除く)	円	515,865.5	1,380,283.3	1,010,491.6	981,644.8
経産牛1頭当り所得	円	△ 112,643	159,109.0	26,025.8	140,627.0
牛乳100kg当り生産原価	円	13,250.2	14,703.2	13,971.1	15,700.2
〃 (家族労働費除く)	円	11,225.6	13,625.9	12,375.4	13,949.4
牛乳100kg当り所得	円	△ 1,082	1,929.5	536.4	1,560.7
所得率	%	△ 6.4	11.8	3.4	9.8

の農家で60%を超えており、平均で約64%と購入飼料費が生産費に占める割合が高く、経営を圧迫している状況が続いている。

本県の酪農経営の情勢は、戸数、乳牛頭数ともに減少を続けている

（令和8年6月現在の酪農家戸数は80件）。これには、都市化、後継者不足、生産資材の高騰による経費の増大、牛房稼働率の減少等が酪農経営の悪化要因として挙げられる。今後も酪農経営を持続させるために、

第三者継承等による新たな担い手の確保、人員不足を補うためAIやIoT等の先端技術の活用は重要である。

また、副収入を増加させる取組みとして、地域の肉用牛農家と連携し、

安定した肉用子牛の販売収入を確保する仕組み作りも必要である。

他にも出前授業等を実施し、地域住民の理解を深めていくことも都市で酪農を続ける上で大切な活動だと考える。

表2 酪農診断農家の収益性(経産牛1頭当たり、単位:円)

項 目		1号	2号	3号	4号	最 小	最 大	平 均	前年平均		
売上高	牛乳販売収入	1,552,430	1,316,515	1,201,155	654,373	654,373	1,552,430	1,181,118	1,045,358		
	子牛育成牛販売収入	163,603	128,322	56,572	24,263	24,263	163,603	93,190	89,201		
	その他売上	50,220	3,575	91,790	50,961	3,575	91,790	49,137	51,914		
	計	1,766,253	1,448,412	1,349,517	729,597	729,597	1,766,253	1,323,445	1,186,473		
売上原価	期首育成牛評価額		101,956	196,231	59,435	111,770	59,435	196,231	117,348	195,500	
	生産費用	種付料	48,279	0	0	5,006	0	48,279	13,321	19,856	
		素畜費	0	25,103	50,827	0	0	50,827	18,983	7,193	
		購入飼料費	962,402	965,686	764,360	369,661	369,661	965,686	765,527	662,034	
		自給飼料資材費	20,000	0	25,911	4,062	0	25,911	12,493	11,985	
		敷料費	2,667	0	0	1,000	0	2,667	917	1,238	
		労働費	家族労働費	48,000	52,394	166,957	150,000	48,000	166,957	104,338	112,287
			雇用労働費	62,242	24,727	2,309	47,042	2,309	62,242	34,080	41,113
			計	110,242	77,121	169,265	197,042	77,121	197,042	138,418	153,399
		診療・医療品費	76,272	50,974	96,303	32,382	32,382	96,303	63,983	76,851	
		電力・水道費	55,374	84,711	50,607	65,699	50,607	84,711	64,098	47,692	
		燃料費	23,584	6,736	23,706	29,001	6,736	29,001	20,756	34,187	
		償却費	建物・構築物	44,117	88,649	0	5,273	0	88,649	34,510	25,782
			機器具・車両	77,355	21,868	66,141	47,829	21,868	77,355	53,298	42,083
			乳牛	148,425	80,603	50,046	53,034	50,046	148,425	83,027	76,191
			計	269,898	191,120	116,187	106,135	106,135	269,898	170,835	144,057
		修繕費	64,357	14,097	42,782	52,074	14,097	64,357	43,328	34,648	
		小農具費	65,333	0	372	1,667	0	65,333	16,843	17,242	
		消耗諸材料費	0	58,775	3,259	3,009	0	58,775	16,261	26,909	
		預託料・賃料料金	53,333	1,884	20,505	1,748	1,748	53,333	19,368	18,326	
	当期生産費用合計	1,751,741	1,476,207	1,364,085	868,486	868,486	1,751,741	1,365,130	1,255,616		
	期中経産牛振替額		53,793	117,735	88,110	96,667	53,793	117,735	89,076	119,884	
	期末育成牛評価額		157,797	150,287	94,397	142,500	94,397	157,797	136,245	96,185	
	売上原価		1,642,106	1,404,415	1,241,013	741,090	741,090	1,642,106	1,257,156	1,235,047	
	生産原価		1,428,283	1,272,518	1,092,650	665,866	665,866	1,428,283	1,114,829	1,093,932	
	生産原価(家族労働費除く)		1,380,283	1,220,124	925,694	515,866	515,866	1,380,283	1,010,492	981,645	
	売上総利益		124,147	43,997	108,504	△ 11,493	△ 11,493	124,147	66,289	△ 48,574	
	一般管理費	販売経費	121,218	153,933	118,580	68,671	68,671	153,933	115,601	86,325	
		保険料	70,887	16,415	23,814	72,060	16,415	72,060	45,794	41,787	
		租税公課・諸負担	14,719	22,253	39,447	37,803	14,719	39,447	28,556	28,845	
		事務費その他	38,158	219	4,191	1,204	219	38,158	10,943	9,559	
		計	244,982	192,820	186,031	179,738	179,738	244,982	200,893	162,515	
	営業利益		△ 120,836	△ 148,823	△ 77,527	△ 191,231	△ 191,231	△ 77,527	△ 134,604	△ 211,089	
営業外収益	受取利息	33	33,929	0	0	0	33,929	8,490	0		
	奨励金・補填金	36,422	38,512	85,990	136,953	36,422	136,953	74,469	238,008		
	成牛処分益	9,450	0	16,759	34,129	0	34,129	15,084	21,733		
	その他	0	30,354	14,005	4,376	0	30,354	12,184	27,958		
	計	45,904	102,795	116,754	175,458	45,904	175,458	110,228	287,704		
営業外支出	支払利息	2,905	1,765	0	8	0	2,905	1,170	758		
	支払地代	64,000	6,761	11,978	39,288	6,761	64,000	30,507	27,311		
	成牛処分損	1,759	0	31,790	21,013	0	31,790	13,640	8,208		
	その他	17,047	185	3,307	13,936	185	17,047	8,619	11,998		
	計	85,712	8,710	47,075	74,245	8,710	85,712	53,935	48,274		
経常利益		△ 160,643	△ 54,739	△ 7,848	△ 90,019	△ 160,643	△ 7,848	△ 78,312	23,340		
特別利益		0	0	0	0	0	0	0	0		
特別損失		0	0	0	0	0	0	0	0		
当期純利益		△ 160,643	△ 54,739	△ 7,848	△ 90,019	△ 160,643	△ 7,848	△ 78,312	2,330		
経常所得		△ 112,643	△ 2,344	159,109	59,981	△ 112,643	159,109	26,026	140,627		
当期純所得		△ 112,643	△ 2,344	159,109	59,981	△ 112,643	159,109	26,026	140,627		

畜産会の新たな執行体制 がスタート（役員の選任）

令和8年6月29日に「一般社団法人神奈川県畜産会 第72回定時社員総会」が開催され、任期満了に伴う役員改選の結果、新たな役員体制は次のとおりとなりました（順不同、敬称省略）。退任された理事及び監事におかれましては、本会の発展にご尽力賜り誠にありがとうございました。また、提出した全ての議案は可決されました。会員皆様のご協力に感謝いたします。

会長 梶 稔（農協中央会）
副会長 森 正明（学識経験者）
副会長 志澤 勝（畜産振興会）
専務理事 高尾健太郎（畜産会）
常務理事 橋本 聡（畜産会）
〈理事〉
根倉 修（全農県本部）
荒井 新吾（県酪農生産者協議会）
石井 廣（県肉牛経営者協議会）
嶋津 義人（養鶏連）
相原 栄一（県獣医師会）
臼井 欽一（養豚協会）
柳下 健一（横浜農協）
龍崎 智（よこすか葉山農協）
鈴木 潔（さがみ農協）
増田 定二（湘南農協）
宮永 均（秦野市農協）

大矢 和人（厚木市農協）
天野 信一（かながわ西湘農協）
落合 幸男（相模原市農協）
中里 州克（神奈川つくい農協）
〈監事〉
真壁 勇男（全農県本部）
鈴木 理史（神奈川中央養鶏）
（総務部）



牛マルキン

（肉用牛肥育経営安定交付金制度）

交付状況

令和八年一月～三月交付金精算単価（肥育牛一頭当たり）

〇肉専用種

一月

二月

交付なし
交付なし
交付なし

地方競馬の収益金は
畜産振興に役立てられています。

川崎競馬開催日

7月27日(月)～7月31日(金)ナイター

8月18日(火)～8月21日(金)ナイター

9月 7日(月)～9月11日(金)ナイター

三月 〇交雑種 交付なし
一月 〇交雑種 交付なし
二月 〇乳用種 交付なし
三月 〇乳用種 交付なし
一月 三七、一九五・二円
二月 三〇、三五七・九円
三月 二八、七四三・三円
令和八年四月交付金概算単価（肥育牛一頭当たり）
〇肉専用種 交付なし
〇交雑種 交付なし
〇乳用種 三、三五九・九円（畜産会 倉迫）

国産の牛乳、お肉、卵を食べてまもう

畜産物を生産するためのコストが上昇しています。
皆様に国産の畜産物を食べていただくことが生産者の応援に繋がります。

公益社団法人
中央畜産会
TEL.03-6206-0840

東京都千代田区外神田2-16-2 第2ディーアイシービル9F

全国の畜産会組織は地方競馬の売上の一部を活用して、日本の畜産振興に取り組んでいます。

「家保」×「DX」家畜衛生対策の新時代へ

今年も暑さが厳しい季節になってきました。日々の業務も暑熱対策などさらに忙しくなっているところだと思います。

ところで、最近よく耳にする「DX」という言葉はご存じでしょうか？これは「デジタルトランスフォーメーション」の略で、簡単に言えばデジタル技術を使って仕事やサービスを効率化し、これまではなかった新しい価値を生み出す取り組みのことです。

家畜保健衛生所でこの「DX」を進めており、家保業務の効率化や職員のスキルアップに向けた新しい技術を導入しています。

今回はそのうちの一つ「ウェアラブル映像デバイス」についてお話しします。

ウェアラブル映像デバイスは使用者が身に着けて、映像をリアル



スマートグラス

家保だより

タイムで記録・共有できる電子機器や装置のことです。家保では昨年度から胸や頭に装着するカメラを導入し、業務に活用しています。

例えば、異常家畜の発見の連絡があった際、現地に向かった職員がカメラを装着することで、農場の様子や家畜の状態がクラウド上に記録され事務所にいる職員にもリアルタイムで共有されます。現場の判断を速やかに共有することで家保全体の対応を速やかに進行できるようにすると同時に、現場での判断に苦慮するような場面

で事務所にいる職員に意見を求めることも可能になりました。

また現場対応の様子などを映像記録として残し、若手などの現場経験の少ない職員が後から記録を見返すことで実践的なスキルを身に付ける一助になると考えています。

家保では、このウェアラブル映像デバイスをはじめとする技術を使って、皆様がより安心して畜産業に専念していただけるような仕組みづくりを目指していきますので、家保職員が胸や頭に見慣れないカメラを付けていても暖かく迎え入れていただけると幸いです。

(県家畜保健衛生所 塚 歩知)

国旗損壊罪は罪造り法案か？ 処罰対象 あいまい法案か？

土も草木も火と燃える
果て無き戦野を踏み越えて

進む日の丸 鉄兜・・・

と歌って進軍した頃の軍隊には最敬重されたのが日の丸の旗だったでしょう。国の祝祭日には必ず、君が代を歌いながら国旗を掲げたものでした。それまでの国旗は丁重に扱われ、粗末にしたことが憲兵や警察に見つか

かったら大変だと、収容の場所も神棚の近くに。それが一九四五年ポツダム宣言を受諾した敗戦後には軍隊も日の丸も崇められなくなりました。当時はすべての物資が不足で布地も無く、大きな唐草模様の風呂敷の代わりになったのが日の丸の布地。

白地に赤く 日の丸染めて

ああ美しい 日本の旗は・・・

と歌った国旗を配給米や闇米を運ぶ風呂敷に使った人も少数ではなかったようです。「ひどいじゃない

か！国旗を風呂敷に使うなんて」

「だってしょうがねえだろう。ほかに米を入れるようなものが無いんだもの！」当時の米は生命を繋ぐ一番の栄養源でしたね。

揃った出揃った 早苗が揃った

植えよ植えましょ御国のために

米は宝だ 宝の米を・・・

と歌いましたね。「御国のための宝の米を日の丸の国旗で包んで何が悪い！」と言ったオジサンがいたけどさ。早苗さんよ！あんたが創設

新むらすめ

「国旗損壊罪」ってーのは日の丸をレジ袋

に使ったらお手々が後ろに回っちゃうんかい？「私ねー国産の玉子、鶏肉、豚肉、牛乳、牛肉、蜂蜜も買ったのよ。あつ桜肉もあるわ。みんな日本産だから日の丸をレジ袋にして包んだのよ。いーでしょー！？」

何が罪になるのか？ならないのか？早苗さんよ、議員さん方よ、こんな無駄なことに労力使わないで法案取り下げたら。

(忠九朗)